

CASBEE

新築

(簡易版)

建築物総合環境性能

評価システムによる

評価結果

■使用評価マニュアル:

CASBEE-新築(簡易版)2006年版

■使用評価ソフト:

CASBEE-NCb_2006(v.1.2)

作成日

2008年3月31日

作成者

1900/1/0

確認日

1900年1月0日

確認者

1900/1/0

(1) 建物概要

建物名称	(仮称)ダイナシティ堀川御池 新築	敷地面積	303 m ²	外観/バース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください
建物用途	集合住宅	建築面積	238 m ²	
建設地	京都府京都市	延床面積	2,542 m ²	
気候区分	地域区分IV	階数	地上14F	
地域・地区	商業地域	構造	RC造	
竣工年	2008年5月 予定	平均居住人員	〇〇 人	
		年間使用時間	〇〇〇 時間/年	

(2-1) 環境性能評価結果 (バーチャート)

注1

Q 建築物の環境品質・性能 (居住環境のアメニティを向上させる性能評価)

SQ= 2.9

Q-1 室内環境

スコア(評価点): SQ1 = 3.0

Q-2 サービス性能

スコア(評価点): SQ2 = 2.9

Q-3 室外環境 (敷地内)

スコア(評価点): SQ3 = 2.6

LR 建築物の環境負荷低減性 (環境負荷を低減させる性能評価)

SLR= 2.9

LR-1 エネルギー

スコア(評価点): SLR1 = 3.6

LR-2 資源・マテリアル

スコア(評価点): SLR2 = 2.6

LR-3 敷地外環境

スコア(評価点): SLR3 = 2.4

(2-2) 環境性能評価結果 (レーダーチャート)

注1

(2-3) 環境性能効率

BEE

注2

Q-2 サービス性能

Q-1 室内環境

Q-3 室外環境 (敷地内)

LR-1 エネルギー

LR-2 資源・マテリアル

LR-3 敷地外環境

BEE =

建築物の環境品質・性能 Q

建築物の環境負荷 L

=

25 × (SQ - 1)

25 × (5 - SLR)

=

47.8

50.3

= 0.9

BEE=3.0

BEE=1.5

BEE=1.0

100

50

0

0

50

100

建築物の環境品質・性能 Q

建築物の環境負荷 L

48

0.9

50

S

A

B⁺

B⁻

C

(3) 建築物の総合的な環境性能とは別枠の重要評価項目

注3

(3-1) 建築物の代表的な環境負荷に関する定量的な評価指標

<実施設計段階、竣工段階で詳細な評価を行う場合に記入>

	年間延床面積あたり指標	人・時間あたり指標	年間延床面積あたり削減量	削減率 %	
運用エネルギー消費量	MJ/年m ²	MJ/人時	MJ/年m ²	%	
運用CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /年m ²	kg-CO ₂ /人時	kg-CO ₂ /年m ²	%	
水消費量	m ³ /年m ²	m ³ /人時	m ³ /年m ²	%	
LCCO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /年m ²	kg-CO ₂ /人時	kg-CO ₂ /年m ²	%	
LC廃棄物量	t/年m ²	t/人時	t/年m ²	%	
LC資源消費量	t/年m ²	t/人時	t/年m ²	%	

(3-2) デザインプロセスの評価

設計段階	建設段階
有資格者による設計	環境管理計画

凡例

Q: Quality

L: Load

LR: Load Reduction

SQ: Score of Q category

SLR: Score of LR category

BEE: Building Environmental Efficiency

備考

注1: 当該対象区における標準的な計画の得点が3点。NAは評価対象外とした項目を示す。敷地選定に関わる評価は対象外。

注2: Qは、環境品質・性能(Q)のスコアSQ(Q-1、Q-2、Q-3のスコアにそれぞれの重み係数を乗じた合計値)から算定。

Lは、環境負荷低減性(LR)のスコアSLR(LR-1、LR-2、LR-3のスコアにそれぞれの重み係数を乗じた合計値)から算定。

注3: (3)の評価はオプションとし、実施設計段階および竣工段階で可能な範囲で記入する。